

審議会等の会議結果報告書

課所名

教育総務課

会議名 第2回 ゆめスクールプラン南部地区推進委員会

開催日時 令和5年10月24日(火) 午後7時00分 から 8時40分まで

出席者
(敬称略)

(委員)
植松まどか、笠原俊司、松岡聡、小泉純子、赤羽素乃、百瀬美津穂、村瀬裕美、三澤淳志、根橋ほなみ、後田高幸、市川寿、宮坂一彦、實吉和代、松木文夫、高井秀一、和地忍、武田順勝、小畑美香、伊藤梢、早川匡代、今井香奈子、小松貴俊、関基、小池正人、笠原敏彦

(オブザーバー)教育委員
岩波健一、玉本広人、草間良子、今井みどり

(事務局)
三輪晋一教育長、細野浩一次長、小林純子課長、茅野光徳係長、橋本大智主任、森崇係長、藤森聡史主査、三村昌弘指導主事、溝口純永指導主事

(傍聴者)
13名

資料

次第
資料1 再編整備を進めるにあたって委員の皆様からいただいた意見や課題
資料2 グループワークの進め方
資料3 第2回ゆめスクールプラン南部地区推進委員会 グループ

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

(進行:教育総務課長)

1 開会

2 教育長あいさつ

3 グループワーク

(1) 再編整備を進めるにあたって委員の皆様からいただいた意見や課題(資料 No1)

事務局より説明

【質疑応答】⇒なし

(2) 再編整備を進めるにあたって グループワーク(資料 No2)(資料 No3)

事務局より説明

・5つのグループに分かれて再編整備を進めるにあたっての課題と解決策を話し合う。

【発表】

Aグループ

・9年間同じ環境で過ごすということで、人間関係などで上手いかわなくなった場合は、ずっと学校に行けなくなるということが危惧される。また、生活態度などの面で中学生から小学生への悪影響がないか心配される。それらに対しては、支援人材の配置や親子が悩みを気軽に相談できる場を作るなどの解決策が挙げられた。また、毎年クラス替えをして環境を変えたり、施設面では小中が一体となっているが、中はある程度分かれているような工夫が考えられる。

・通学路について、特に低学年の安全に配慮する必要があると思う。スクールバスや見守り隊を外注

するなどの解決策が挙げられた。

- ・用地買収については、一番重要ではないかと考えている。再編に向けた検討を進めていても用地が確保できなかったとなると全て無駄になってしまうので、早めに動く必要があると考えている。また、施設の設計の面でも水害に備えて高くするという考えもあるが、地域の景観などの点で調整などが必要かと思う。
- ・その他には、学校跡地の利用も考える必要があるといった話や、新しい学校の一体感を作るためにお揃いのジャージを作ってはどうかなどの話もあった。
- ・一つの学校になるということで学習差をなくしていくことが必要になると考えている。

Bグループ

- ・施設については、防災面も考慮して学校規模に見合った施設・設備を整備していくことが必要と考えている。
- ・通学路については、距離が長くなる子供がいることから、児童生徒の安全を一番に考える必要があると考えているが、その解決策として国道 20 号バイパス建設と連動した通学路の整備ということで、徹底した通学路の点検をして必要な整備を行うことが挙げられた。
- ・相談支援体制については、他の学校の事例でQRコードを配布して、そこからアクセスした先で相談できるというものがあるようなので、それも一つのアイデアではないかと考えた。
- ・地域や保護者への情報発信については、決定する前に子供たちも含めて説明することが大事ではないかという意見が出た。

Cグループ

- ・通学路の安全面への不安についての意見が多く出た。大きな堀や上川を渡って通ってくる際に、防災面も含めて、スクールバスや道路整備を検討する必要があると考えた。また、諏訪南中学校は避難所になっているが、水害などを考えると大規模校としてのハード面の懸念がある。
- ・小中一貫した9年間と考えると、低学年と中学3年生の年の差に対しては保護者の不安は非常に大きなものである点や、小中交流のメリットはあるが、やはりいじめなどが起こった場合に9年間同じ環境であるといった点が不安である。解決策としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーなどの配置が挙げられた。
- ・学校が再編されることで、無くなった学校の地域やPTA、同窓会のアイデンティティや思いに十分配慮しながら進めていくことが重要であると考えた。

Dグループ

- ・施設面では、全校児童生徒が輝いて活動できるための広さを持つ校舎、校庭、体育館などが必要であり、大規模校になるということで、そのような施設となるようにという意見があった。また、インクルーシブな校舎ということで、従来のように教室を壁で区切るのではなく、可動式したりオープンなスペースを作ったり、子供たちが学びたいスタイルで学べる校舎が理想であると考えた。地域と学校の関わりの面で学校開放にも耐えうる図書館や体育館、グラウンドがあると良いと考えた。
- ・通学については、やはり通学距離が長くなる子供に対してはスクールバスなどの支援や道路整備が必要だと考えた。
- ・児童生徒の支援について、自分の居場所をなくし、教室に入れないう子供が通える中間教室の整備も必要ではないかと考えた。静かに学習したい生徒のために区切られたスペースを設けるといった配慮も考えられる。多様な子供を包み込むインクルーシブな学校を実現できると良いと考えた。
- ・学校跡地利用については、部活動やクラブ活動、行事で使えないだろうかといった意見が出た。
- ・PTA、同窓会などの組織づくりは非常に難しい問題だと思うが、具体的な解決策は出てこなかった。

Eグループ

- ・施設の面で、大規模校になるということで、十分な教育活動を保障するための施設整備、グラウンド、体育館、特別教室、少人数学習をする教室、相談室、駐車場の確保が課題となるという意見が多く出た。また、学校規模に合わせた職員の数がどうなるのかということやスクールバスの運行といったことを考慮すると、やはり用地確保は重要であると考えた。
- ・通学区については、自由選択ということも話題に出た。学校の地区子供会が学校ごとに別々になってしまうので課題も多いとは思いますが、選択肢として挙げられた。また、通学距離の点では特に低学年が国道や河川、道路幅の狭いところなどの危険箇所を通るのが心配であるため、スクールバスも一つの方法ではないかと考えた。早めに現地を確認しながら危険箇所を洗い出しておくことは、今からでもできるのではないかと意見もあった。
- ・子供の数が多くて、不登校やいじめの心配や、多様な子供に寄り添うなどといった点から大規模校としての不安が挙げられる。そのような不安を解消するためにも児童生徒理解をいかに進めるのかといった話になったが、時間の関係で解決策まで出すことができなかった。
- ・地域に向けた情報発信について、計画の進捗状況の公表や、保護者はもちろんのこと、子供自身に対しても一つの学校になっていくことへの理解を促すことが必要であると考えた。配慮しながら計画的に、丁寧に説明しながら進めていくことが課題として挙げられた。

(その他意見)

- ・通学区の自由選択制というアイデアが出たが、私のグループでは逆の意見が出た。地域の立場からすると、安全面などには十分に配慮し、スクールバスなどを整備した上で、地域の子供たちには同じ学校に通ってもらいたいという思いがある。

4 次回推進委員会の開催について

日時 12月15日(金)午後7:00～ 場所:中洲小学校

5 その他

6 閉会